

# 高齢者の社会関係資本についての研究

下村耕介 ([21011199ks@tama.ac.jp](mailto:21011199ks@tama.ac.jp))

## 1. 目的

この論文の目的は加齢に伴い強化される社会関係資本はどのようなものかを示すことである。

## 2. 内容

現在、20代～30代の社会人を中心に他人を信頼せず、仲間を作らず、一人で生きていくというライフスタイルが生まれつつあるように見える。これを世の中では「お一人様現象」と呼んでいる。

このようにお一人様が増えると災害時の助け合いに支障を及ぼすばかりか高齢者の支えあい、孤独死の増加などは懸念される。これらお一人様像は20～30代に限った話ではなく、より高齢者の方が問題ではないだろうか。例えば会社をリタイアして同居人を失って孤独死をする人も見受けられる。これを防ぐためには高齢者のつながりを構築し強化することが必要だろう。

今後、多くの人がつながりを持ち仲間を作り支えあうことが必要となるが、具体的にはどのような団体ならば拡大あるいは構築できるのだろうか。言い換えれば高齢者のつながりはどのような条件で社会関係資本をデザインすればいいのだろうか。高齢者のコミュニティが生成されるメカニズムはどのように強化され、あるいは弱体化するのだろうか。

本論文では高齢者のコミュニティの構築ならびに強化の条件を明らかにすることを目的とする。

## 3.

### 説明

高齢者にアンケートを実施し趣味・学習・スポーツのつながりが加齢に伴い社会関係資本としてどのように変化しているのか調査を実施する。

趣味・学習・スポーツのつながりに限定した理由はそれが加齢が原因で切れてしまうことがないと思われる。このコミュニティのつながりが早い段階で構築されていれば社会関係資本は加齢とともに強化されるのではないだろうか。

ここでは社会関係資本を測る指標として、コミュニティと一緒にいる他者と一緒にいる時間と参加回数の二つの指標を用いる。それによって社会関係資本の強さを測っていきたい。時間と回数の変化によって人間の強度を数値化できるのではないかと考えている。

加齢に伴い強化されるであろう人間関係を計測しそれを元に社会関係資本の特徴について検討を行う。

#### 4. 参考文献(現在)

著者：稲葉陽二『ソーシャルキャピタル入門』

発行所名：中公新書

出版年：2011年11月25日

著者：ロバート・D・パットナム『哲学する民主主義』

発行所名：NTT出版

出版年：2001年3月30日